

「 山を守り育てる事 」

宮崎県 西米良村立西米良中学校 2年 ^{はますな}濱砂 ^{たかひこ}貴桂彦

2022年9月18日、台風14号により、西米良村は大きな被害を受けました。その中でも、父が運営しているステラスポーツが土砂災害により、施設が崩壊しました。その状況を目にした時、僕は、とても恐ろしいことが起こったと改めてわかりました。

土砂災害の代表的なものには、がけ崩れ、地すべり、土石流などがあります。土砂災害が起こる主な原因は、長時間の雨や短時間に強い雨が降り、地震や人の開発によるものなどの原因があります。その中でも、西米良村で起こる主な原因は、大雨による災害だと思います。

僕は、小さい頃から西米良村の川で泳いだり、魚釣りをしたりして、遊んでいました。幼少期の頃の川は、「ふち」と言う青緑色をした、深い場所があり、また、岩肌がゴツゴツしていて、水の温度もとても冷たく、周りの山々の緑が川に映るほど澄みきった川でした。今は、その「ふち」もなくなり、山の土砂が川に蓄積し、川の水位が上昇して、泳ぐ場所も少なくなってきました。近年の異常な大雨により、簡単に山から土砂が流れ出るようになりました。大雨だけではなく、森林伐採やその後の再生林の減少により、山が水を蓄えることができずに、がけ崩れや地すべり、土石流などの土砂災害につながっていると思います。

土砂災害を減らすためには、まず1つ目に、森林を守ることをテーマに、人がしっかりと、山に木を植えて、山を守ることやがけ崩れをふせぐことが大切だと思います。2つ目に、危険な場所をハザードマップで確認し、その場所に家を建てないことや、万が一の時に、すぐに避難が出来るように日頃から準備をしておくことが大切だと思います。僕だけではなく、一人ひとりが防災の意識を持つこととそのことを忘れないように繰り返し意識できるように、周りの人たちに伝えられるようになりたいです。

西米良村では、林業が盛んに営まれています。村の森林の割合は、およそ96パーセントとなっています。林業は、木を切る「伐採」から、木を山から出す「造材」、その山に木の苗を植える「植林」、その植えた木を育てていく「育林」という流れで約30年から50年間、山を育て、守っていきます。僕の祖父も林業の仕事を長くやってきました。祖父に話を聞くと、昔は、水が流れていた小川も枯谷になった所が多く、日中は、仕事が出来ないほど暑い日が増えたと言っていました。枯谷は、普段乾いているが、大雨の時には、一気に水が流れ土石流が起きやすい危険な場所だと言っていました。その枯谷が増えたという事は、昔より危険な場所が増えたという事を聞いて驚きました。日頃、生活していると気づかない変化も昔から山を見ている人を見ると確実に自然は失われているのだと改めて感じました。

今、日本中で台風や大雨により大きな被害が出ています。場所や季節も今までとは違った所で規則がありません。安全と思っていた場所でも何が起きるか分からない時代となっています。予測ができない大規模災害にまき込まれる事が誰にでも起こり得る時代だと思います。「自分は関係ない」「自分は大丈夫」という安易な考えや油断が被害を大きくする理由になっていると思います。

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 金賞

僕が経験した土砂災害では、施設も壊滅し両親はその対応に追われていました。土砂が施設内に入り、毎日土砂を水で洗い出す作業も大変でしたが、その後、この施設を再建し客足が戻ってくるのか？という不安もあったそうです。土砂災害は建物を壊すだけではなく、そこに住んでいた人々の生活も時間も跡形なく流してしまう、本当に恐ろしい災害の一つだと思いました。

これから、そんな土砂災害をなくす為に僕は、土砂災害ができるだけ起こらないような工夫をしたいと思いました。